

## U型を志す一人のサラリーマン

野田泰博四六歳。彼は二枚の名刺をもっている。フェシル・インターナショナルA/S(鉄鋼販売)日本支社部長代理。もう一つは、千葉県印旛郡栄町町議会議員である。

彼が、はじめて私のところにやってきたのはいまから三年前、平成二年の春だった。

開口一番「社畜にだけはなりたくありません、同時に会社に対して存在感のあるサラリーマンをめざしています」こういった。

「サラリーマンの理想だよ。しかし、なかなかうまくいかないものなんだよ」こう私はおちやらかした。しかし、彼とのつきあいが深まるにつれ彼の行動力にはびっくりした。会社命令といえど、今週はブラジル、来週はノルウェーなどというスケジュールを軽々こなすし、なにより、英語、ドイツ語を自由にあやつる。行動能力抜群の男。この点、私は彼に好意以上のものをもつようになった。

その彼が、昨年の春、私のところへ来て、突然こういった。一問一答風にまとめてみると以下のようなことになる。

「郷里の町会議員選挙に立候補します」

「会社は承知なのかね」

「承知です」

「君のような行動派を会社がよく手放す気になったね」

「いや、サラリーマンのままで立候補するんです。会社は認めてくれました」

「しかし、当選すれば、結局はやめることになるんじゃないか」

「当選しても、いまの会社につとめ続けます」

「ダメだよそんなのは。二足のわらじそのものだ。サラリーマンとしても半人前になってしまし、町会議員の仕事にも支障をきたす。月給泥棒、税金泥棒、いちばんよくないよ」

「そんなことはありません。会社の仕事にも一〇〇パーセント、エネルギーをつぎこみます。町議会にも一〇〇パーセント、私は一〇〇を二〇〇に生かすという点で、人生のロマンを賭けてみたいんです……」

彼は見事に当選した。町議会や住民の評判も悪くはないし、会社の仕事に力をぬくこともないようだ。

年間二〇日間の有給休暇と、上司に特別に認めてもらっている「公務のための欠勤」をフル活用して、議員の仕事をこなしている。

「二四時間に三六五日をかけると、八七六〇時間、これから睡眠や労働時間など必要分を引くと三三六〇時間あまる。これで議員活動をやる。勉強はもっぱら電車の中でする」